

2025年7月29日
生成AIの利用に関する夏季公開学習会

学校現場における生成AIの利活用

～令和7年7月までの取組を中心に～

文部科学省初等中等教育局 学校情報基盤・教材課長

寺島 史朗



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

自己紹介

- 平成13年 4月 ○ 文部科学省 入省
初等中等教育局財務課、大臣官房総務課、研究開発局開発企画課、初等中等教育企画課
- 平成23年 7月- ○ 宮城県教育庁 教職員課長
- 平成25年 7月- ○ 高等教育局私学部私学行政課 課長補佐
- 平成27年 3月- ○ 在タイ日本国大使館 一等書記官
- 平成30年 3月- ○ 大臣官房国際課 国際戦略企画室長
- 平成31年 3月- ○ 高等教育局国立大学法人支援課 企画官
- 令和元年 9月- ○ 橋本聖子オリパラ担当大臣秘書官
- 令和3年 2月- ○ オリパラ組織委員会 会長秘書官
- 令和3年 10月- ○ 総合教育政策局教育人材政策課 企画官
- 令和4年 8月- ○ 総合教育政策局 学力調査室長
- 令和6年 4月- ○ 初等中等教育局 学校情報基盤・教材課長、学校デジタル化PTリーダー



1. 教育と生成AIを取り巻く環境

2. 生成AIの利活用に関する取組

(1) 方針編

(2) 実証編

1

教育と生成AIを取り巻く環境

Society 5.0

仮想空間と現実空間の高度な融合→人間中心の社会



仮想空間と現実空間の高度な融合。社会のあらゆるところにデジタル技術。

2040年代、情報技術は更に進展することが予想される

情報活用能力は多様な個人の思いや願い、意思を具現化するチャンスにも繋がる

身の周りにある多くのものに 情報技術が活用されている



交通系ICカード



スマートフォン
でのキャッシュ
レス決済



自動ブレーキ
システム

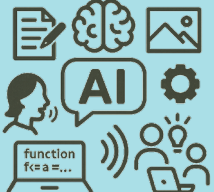


GPS



自動翻訳

これらは、情報技術が活用されていることを感じさせない
ほど身近なものとなっている



さらに、生成 AI が急速に社会に普及している。
文章の素案作成やイメージの生成、語学学習に
おける利活用、プログラミングコードの生成、
ブレインストーミングの壁打ち相手としての利
活用、既存のサービスへの生成 AI の機能の搭載
など、様々な利活用が広まっている

実社会における課題解決には 情報技術の利活用が不可欠

例 1 地方における移動手段、物流の課題の解決

 公共交通の担い手不足 等による、高齢者等の 移動手段・外出機会の 減少	→	 無人自動運転
 ドライバー不足や高齢 化に伴い、地域におけ る物流配送形態が困難 化	→	 ドローン空輸

例 2 農業における高齢化・農業者人口減少の課題の解決

 農業者の高齢化・農業 者人口減少に伴い、持 続的な農業経営が困難 化	→	 農業用ドローン、 ロボットトラクタ 、水田の水管理シ ステム等
 天候の影響や病気感染 で収穫量が減少し、精 度の高い栽培技術の必 要	→	 センサや気象デー タの AI 解析による 農作物の生育や病 虫害の予測等

例 3 地方における医療の課題の解決

 医療機関の地域偏在に より、医療機関へ受診 に行けない住民が増加	→	 オンライン診療
---	---	--

次期学習指導要領の検討に向けた「諮問文」では

【検討の前提】顕在化している課題

- 三点目として、GIGAスクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤（以下「デジタル学習基盤」という。）は、一人一人の興味や関心に応じ、よさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めていますが、その効果的な活用は緒に就いたばかりです。
- 我が国のデジタル競争力は他国の後塵を拝しており、社会全体の生産性や創造性を高めていく観点からもデジタル人材育成の強化は喫緊の課題です。
- その一方で、実体験の格差やデジタル化の負の側面等を指摘する声もあります。「デジタルかリアルか」、「デジタルか紙か」といった二項対立に陥らず、「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要があります。

情報教育を取り巻く課題

- 子供たちが生きる2040年代以降、**情報技術の更なる進展**が想定され、特に**社会の課題解決**では加速度的に進む（Society5.0）。
- 情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力であり、各教科等の学習のみならず、自ら課題を設定し、解決するといった**探究的な学習の過程でも発揮が期待されるが育成が不十分**。
- **ノーコードや生成AIなど「デジタル技術の民主化」**により、こうした情報技術を使いこなす能力を付ければ、誰もが思いや願い、意志を**具現化するチャンス**を広げることができる。
- **デジタル競争力は国際比較では低位。デジタル人材の不足**も指摘されている。
- 一方で、デジタル化で生じている負の側面にも十分な目配りが必要。**情報技術の仕組みとそれらが認知や行動に与えるリスクを理解し、適切に対応できる力**を育成していく必要がある。AIに操られるのではなく、「AIを使役する」資質能力が重要。



学校教育においても、**情報活用能力が系統的に指導されておらず、その育成が十分とは言い難い。**

情報活用能力の抜本的向上（教育課程の改善）

補足イメージ③

小学校

中学校

高等学校

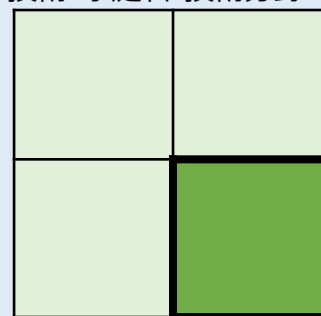
現状

各教科等



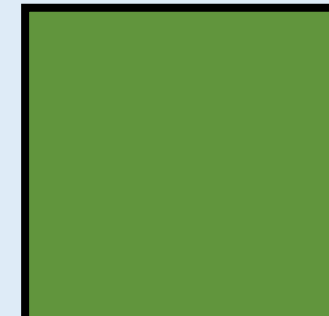
- ① 各教科等の学習活動を通じて学ぶ（どこで何を学ぶか明記なし）

技術・家庭科 技術分野



- ② 技術・家庭科（技術分野）の内容の一領域（情報の技術）で学ぶ

情報科

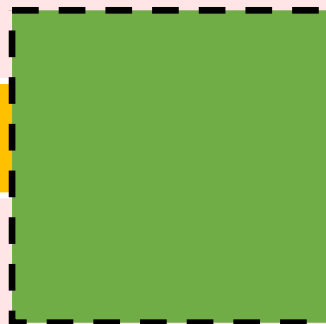


- ③ 情報科で内容を学ぶ（情報Ⅰが必修、情報Ⅱが選択科目）

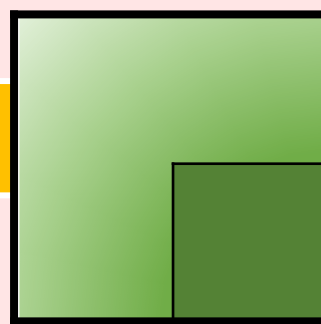
- ・リアルな学びをデジタルで支える
- ・探究的な学びと連携して育成

これらの視点から内容を体系化

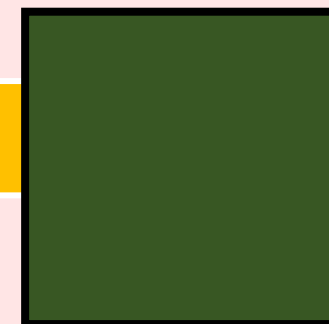
改善の方向性



- ① 一定の時間を確保して内容を教える（総合的な学習の時間における探究的な学びとの具体的な連携の在り方に配慮）



- ② 学ぶ内容を深め・広げる（情報の技術以外の領域でも産業の現状も踏まえ、情報技術活用の観点を重視）



- ③ ①②の検討を踏まえ、情報科の内容を深める方向で改善

⇒ 学校種を通じ、生成AI等の先端技術に関わる内容が明確に位置付いていないことや、急激なスピードで広がる負の側面への対応が不十分 等の課題が議論されている。

人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律（AI法）の概要

成立：令和7年5月28日

施行：令和7年6月4日（一部の規定を除く）

日本のAI開発・活用は遅れている。

多くの国民がAIに対して不安。

法律の必要性

イノベーションを促進しつつ、リスクに対応するため、既存の刑法や個別の業法等に加え、新たな法律が必要。

法律の概要

目的	国民生活の向上、国民経済の発展
基本理念	経済社会及び安全保障上重要 → 研究開発力の保持、国際競争力の向上 基礎研究から活用まで総合的・計画的に推進 適正な研究開発・活用のため透明性の確保等 国際協力において主導的役割
AI戦略本部	本部長：内閣総理大臣 構成員：全ての国務大臣 関係行政機関等に対して必要な協力を求める
AI基本計画	研究開発・活用の推進のために政府が実施すべき施策の基本的な方針等
基本的施策	研究開発の推進、施設等の整備・共用の促進 人材確保、教育振興 国際的な規範策定への参画 適正性のための国際規範に即した指針の整備 情報収集、権利利益を侵害する事案の分析・対策検討、調査 事業者等への指導・助言・情報提供
責務	国、地方公共団体、研究開発機関、事業者、国民の責務、関係者間の連携強化 事業者は国等の施策に協力しなければならない
附則	見直し規定（必要な場合は所要の措置）

世界のモデルとなる法制度を構築

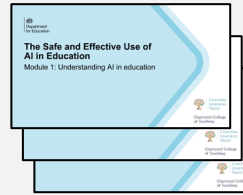
国際指針に則り、イノベーション促進とリスク対応を両立。最もAIを開発・活用しやすい国へ。

グローバルな生成AIの対応の動きの例

生成AIの適切な利活用に向けて世界各国でもガイドライン等の方針策定と実証的な取組が進行中。

イギリス

学校現場でのユースケースや技術的なレポートを発出。これらを踏まえた動画での学校現場向けのツールキットを公表。



イタリア (2024年G7ホスト国)

教師の指導をサポートする生成AIを国として提供し、試行的に15校で導入し、成果・課題の検証を進めているところ。

日本 (2023年G7ホスト国)

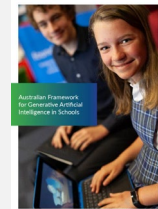
2023年にガイドラインを公表し、24年に改訂。パイロット校をはじめとした複数メニューでの実証事業や動画研修を実施。

アメリカ

2024年にAI開発者・学校現場のリーダー向けのレポートを公表。2025年にAI人材育成に向けた大統領令を発令。

オーストラリア

2023年にガイドラインを公表し、1年後のレビューを実施。一部の州で環境構築を行いながら、成果・課題の検証を実施。

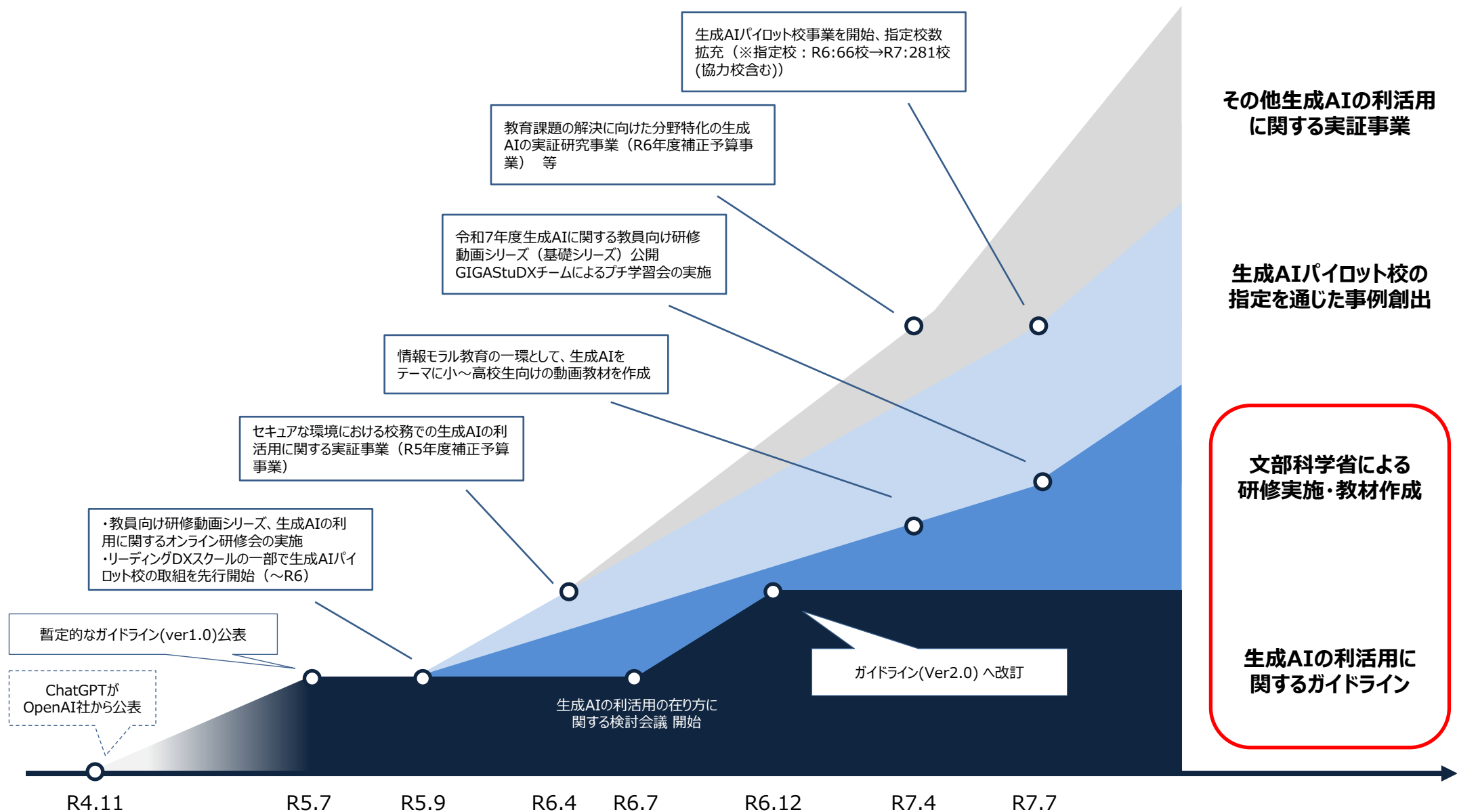


2 - (1)

生成AIの利活用に関する取組 (方針編)

生成AIの利活用に関する文部科学省のこれまでの取組

生成AIはこの数年で急速に進化した先端技術であるが、様々なリスクも存在。
初等中等教育段階において生成AIの適切な利活用に向けて、ガイドライン策定など取組を実施。



初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver.2.0)

- ・ 教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。
- ・ 令和5年7月に暫定的なガイドライン(Ver.1.0)を公表し、令和6年12月にガイドライン(Ver.2.0)へと改訂。

ガイドラインの構成

① はじめに（本ガイドラインの位置づけ及び構成）

① 生成 AI について

② 基本的な考え方

- 1 人間中心の生成AIの利活用
- 2 情報活用能力の育成強化

政府全体の議論
に合わせて内容や
考え方を整理



③ 学校現場において押さえておくべきポイント

- 教職員が校務で利活用する場面
- 児童生徒が学習活動で利活用する場面
- 教育委員会が押さえておくべきポイント

場面や主体に
応じて具体的な
ポイントを整理



ガイドライン参考資料

- 各場面や主体に応じたチェック項目
- 生成AIパイロット校における先行取組事例
- 学校現場で活用可能な研修教材 等

初等中等教育段階における 生成 AI の利活用に関するガイドライン

文部科学省 初等中等教育局

令和6年12月26日
Ver. 2.0

令和6年12月26日にVer.2.0公表



2. 基本的な考え方 – 人間中心の利活用

生成AI について	基本的な考え方		押さえておくべきポイント				参考 資料
	人間中心	情報活用 能力	共通	教職 員	児童 生徒	教育 委員会	

① 学校現場における人間中心の利活用

人間中心の原則



- 生成AIを人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具になり得るものと捉えるべきである。その上で、出力はあくまでも「参考の一つである」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要である。

児童生徒の学びと生成AI



- 学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用するべきであり、生成 AI を利活用することが目的であってはならない。

教師の役割と生成AI



- 指導計画や学習環境の設定、丁寧な見取りと支援といった、学びの専門職としての教師の役割は、より重要なものになる。
- 生成AIの仕組みや特徴を理解するなど、教師には一定のAIリテラシーを身に付けることが求められる。

② 生成AIの存在を踏まえた情報活用能力の育成強化

学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力



- 学習指導要領では、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力として位置付け、情報を主体的に捉え、活用すること、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性を強調している。
- 各学校においては、教科等横断的な視点からの教育課程の編成を通じて、各教科等の学習の過程における指導の中で情報活用能力を育成することが期待される。

情報活用能力の育成強化

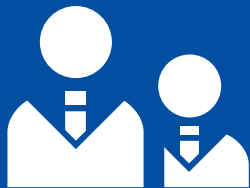


- 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要である。
- 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、発達の段階等を踏まえつつ、情報モラルを含む情報活用能力の育成を充実させていくことが必要である。

3. 学校現場において押さえておくべきポイント

- 教育委員会が主導して制度設計や利活用の方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、効果的な活用を促進する研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

教育委員会等

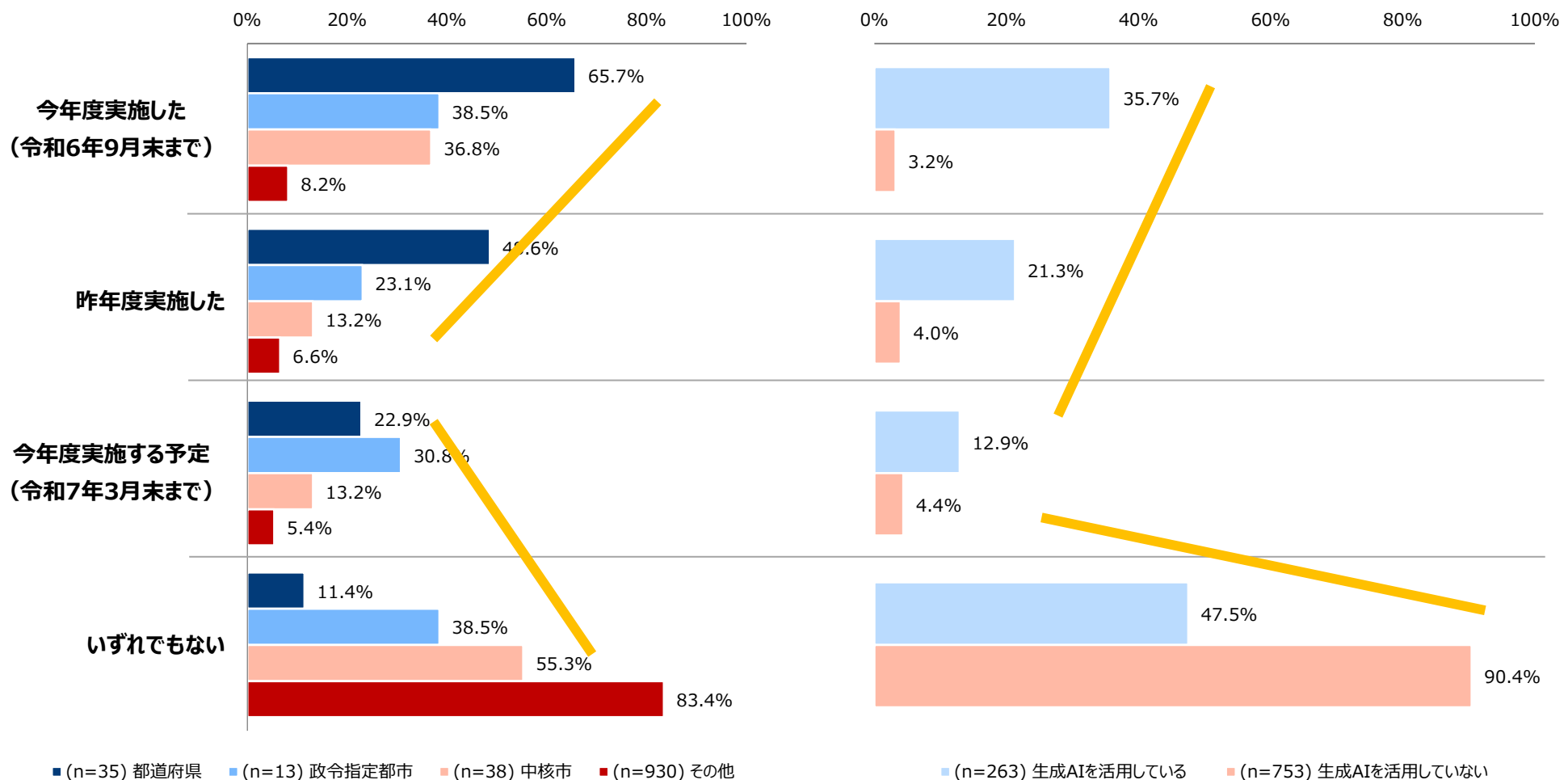


適切な利活用のために考慮すべきポイント

- 各学校が適切に生成AIの利活用を行えるよう**各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要**
- 教育現場の実態に即した**教育情報セキュリティポリシーを教育委員会が策定、必要に応じて見直すことが重要**
- 個人情報の取扱いに関して**必要かつ適切な措置**が取られているか確認すること。著作権の侵害リスクを低減するため、**適切な予防措置を講じているモデルやサービスを選択すること**も考えられる
- バイアス等のリスクや懸念を踏まえた教職員による最終的な判断が不可欠であることなど、**適切な情報提供や研修等のサポートを行うことができるよう、体制の整備や知見の収集に努めることが重要**
- 生成AIサービスを導入する際は、保護者の**経済的な負担等に十分に配慮しつつ、適切な利活用を実現するための研修を実施するなど、丁寧な情報提供を行うことが必要**

生成AIに関する研修の実施状況

- 令和6年度時点で、**大きな自治体ほど生成AIの利活用に関する研修を実施**している。小規模自治体や生成AIを活用していない自治体は研修を実施していない傾向。



出典：文部科学省委託事業「令和6年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進（実証事例を踏まえた先端技術の活用方法・諸外国の先端技術の動向に関する調査研究）」

文部科学省が実施してきた研修等の取組

教員向けの研修動画シリーズは **MEXT Channel (Youtube)** で公開中。**9月以降も実施予定。**

生成AIに関する教員向け研修動画シリーズ・研修会（令和5年9月）

生成AIの利用に関する
オンライン研修会

学校DX戦略アドバイザー事業
オンライン研修会

教育での生成AIの利用について、「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」(文部科学省 令和5年7月4日)を踏まえ、その方向性や活用事例等をシリーズで解説します。

令和5年9月1日(金) 14:00 ~ 15:00
東京大学 大学院工学系研究科 准教授 **吉田 壘**

令和5年9月5日(火) 13:00 ~ 14:00
関東第一高等学校 情報科 講師
スクールエージェント株式会社 代表取締役 **田中 善将**

令和5年9月8日(金) 15:30 ~ 16:30
信州大学教育学部 准教授 **佐藤 和紀**

令和5年9月22日(金) 10:00 ~ 11:00
デジタルハリウッド大学 教授・学長補佐 **佐藤 昌宏**

令和5年9月29日(金) 10:00 ~ 11:00
京都橘大学発達教育学部 教授 **池田 修**

対象者 > 学校関係者(一般参加可) ● 参加費 > 無料(事前申込要)



動画サイトへの
リンクはこちら



令和7年度基礎研修シリーズ（令和7年度6-7月）

生成AIに関する Generative AI
教員向け研修動画シリーズ

令和7年度
研修基礎シリーズ
第1回～第3回

生成AIに対して学校現場でどう向き合えばよいのか。
基礎からわかる全3回のオンライン研修シリーズで、
活用の考え方、校務DXに向けた利活用等を丁寧に解説します。

第1回 6月25日(水) 15:30 ~ 16:30
生成AIの基礎と教育における活用可能性
東京大学 大学院工学系研究科 准教授 **吉田 壘 氏**

第2回 7月4日(金) 15:30 ~ 16:30
生成AIを活用するための情報活用能力の基礎
信州大学教育学部 准教授 **佐藤 和紀 氏**

第3回 7月8日(火) 15:30 ~ 16:30
校務DXに向けた利活用
つくば市立みどりの学園義務教育学校 教頭 **中村 めぐみ 氏**

参加費 無料(事前申込要)

事前申込 <https://x.gd/ZP1vk>

学校現場における生成AIの利活用に関する調査研究事業事務局 Email: ai_info@nttlis.co.jp

文部科学省



リンクはこちら





文部科学省委託「GIGAスクールにおける学びの充実」 情報モラル教育推進事業 - 令和6年度 啓発コンテンツ全体概要 -



■ 概要

学校や家庭内における情報モラルに関する指導の一層の充実を図るため、4本のアニメ動画教材を作成しました。フェイクニュースやAIによるディープフェイクも出現している中で、子供たちがこれらを信じ、扇動され、誤った行動を起こしてしまわないよう、**生成AIの仕組みを踏まえたうえで、「ファクトチェック」「個人情報・プライバシー」「著作権」「情報発信」**に関する内容について、対象年齢別に作成しています。授業中の指導、予習・復習、家庭学習等、様々な場面において是非ご活用ください。

教材⑳ 全部正しい？ 生成AIって



■ 対象 小学生

■ 教材のねらい

生成AIの仕組み（どのように情報が出力されるのか）を題材として取り上げ、**情報には誤ったものもある**ことを理解させ、情報の正確さを判断する**ファクトチェックの大切さ**について考えさせる内容となっています。

教材㉑ うっかり入力？ 個人情報を守るとは ～生成AI編～



■ 対象 中学生～高校生

■ 教材のねらい

生成AIが**個人情報を学習**するという仕組みを題材として取り上げ、**生成AIに個人情報やプライバシーに関する情報を入力するリスク**について理解させ、**自分で考えながら活用する大切さ**を考えさせる内容となっています。

教材㉒ あなたが作るもの「著作権侵害」してない？ ～生成AI編～



■ 対象 中学生～高校生

■ 教材のねらい

生成AIを活用した**イラスト作成**を題材とし、**生成AIの作成した回答には、他者の権利を侵害する情報もある**という性質を踏まえ、**自分で考えながら活用する大切さ**を考えさせる内容となっています。

教材㉓ 1つの情報で大丈夫？ 自分で考える情報選びとは ～生成AI編～



■ 対象 中学生～高校生

■ 教材のねらい

生成AIを活用した**調べ学習**を題材として取り上げ、**生成AIが作成した情報を、そのまま自己の成果物として応募・提出するリスク**について理解させ、**自分で考えながら活用する大切さ**を考えさせる内容となっています。

■ 本教材の構成と活用のポイント（各作品 約4分） ※各教材の構成内容は同じとなります。

① トラブル発生

主人公が生成AIを活用する日常シーンを追体験し、「あれ？と思うような生成AIの使い方」がないか、児童生徒に考えさせます。

② 生成AIの 上手な活用

生成AIの仕組みを解説するとともに、生成AIを上手に活用するためのポイントを解説します。主人公の様子を通して、具体的な生成AIの上手な活用方法を理解させます。

活用のポイント

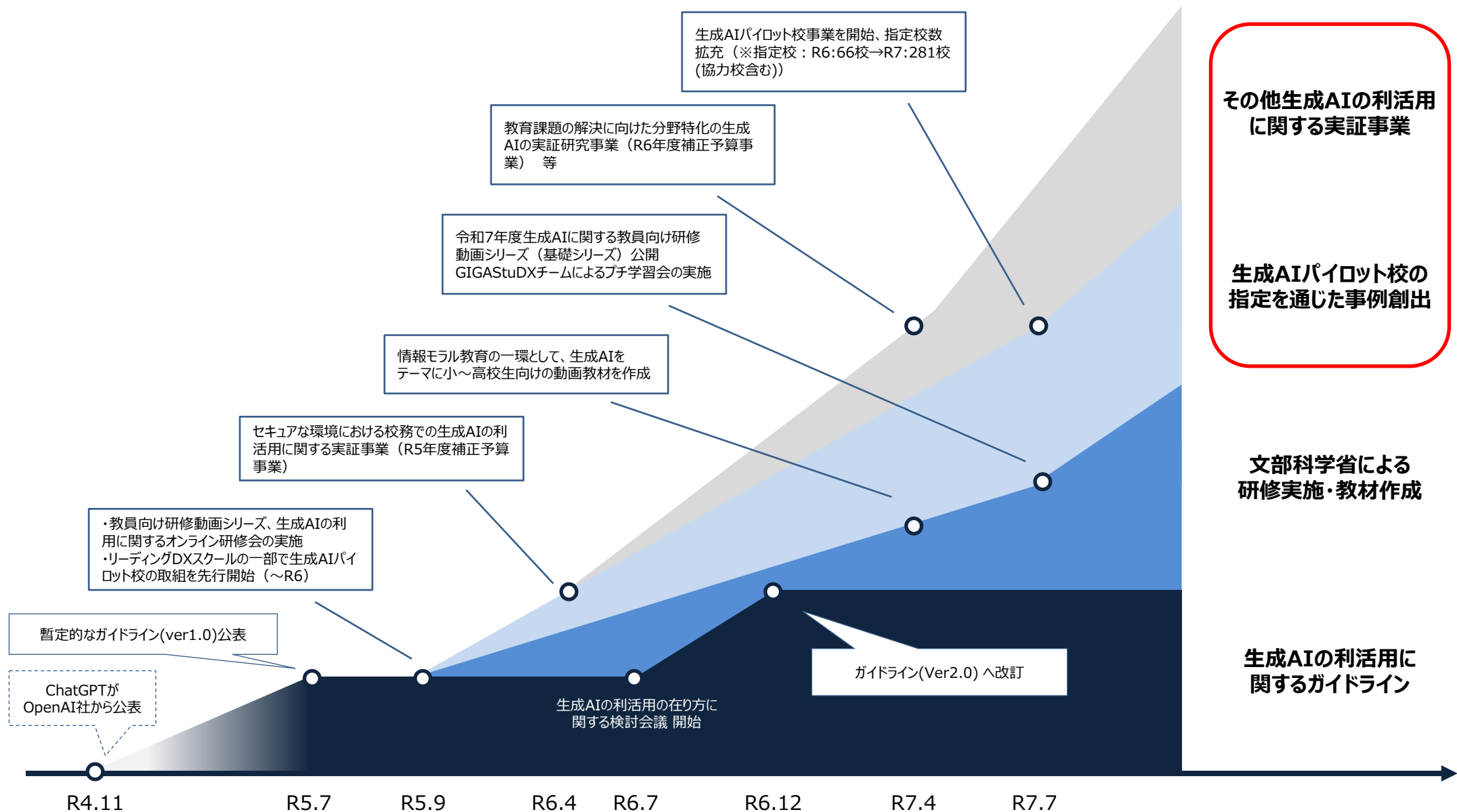
- 生成AIの仕組みを踏まえつつ、上手に活用するためにはどうすれば良いか、自分ごととして考えさせます。
- 具体的にどのように気を付ければ良いか、解説を通じて学ばせるとともに、友人や家族と話し合うことで自身の考えを深めさせることが重要です。

2 - (2)

生成AIの利活用に関する取組 (実証編)

生成AIの利活用に関する文部科学省のこれまでの取組

生成AIはこの数年で急速に進化した先端技術であるが、様々なリスクも存在。
初等中等教育段階において生成AIの適切な利活用に向けて、ガイドライン策定など取組を実施。



3. 学校現場において押さえておくべきポイント

- 校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

教職員の校務



具体的な利活用場面

- 児童生徒の指導にかかわる業務への支援(授業準備、部活動、生徒指導 等)
ex. 授業で取り扱う教材や確認テスト問題のたたき台を作成する
- 学校の運営にかかわる業務への支援(教務管理、学校からの情報発信、校内研修 等)
ex. 各種お便り・通知文・案内文のたたき台を作成する
- 外部対応への支援
ex. 保護者会・授業参観・保護者面談の日程調整に活用する

利活用の際のポイント

- AIサービスの**最新の利用規約を確認・遵守**する
- 原則、**重要性の高い成績情報等を入力しない**
- 個人情報保護法等を遵守**すること、**著作権侵害につながるような使い方をしないこと**
- バイアス等の生成AIの特徴を理解した上で、出力された内容を**採用するかどうかは必ず教職員が判断**する
- 管理職は**適切な利活用がなされているかを確認**する

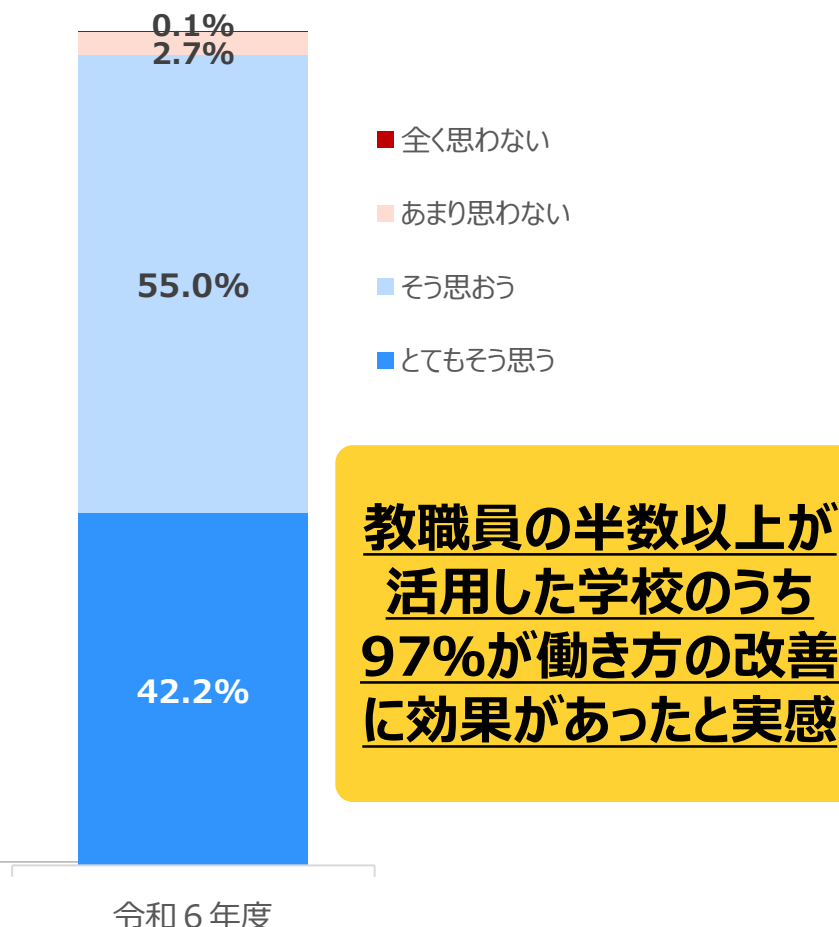
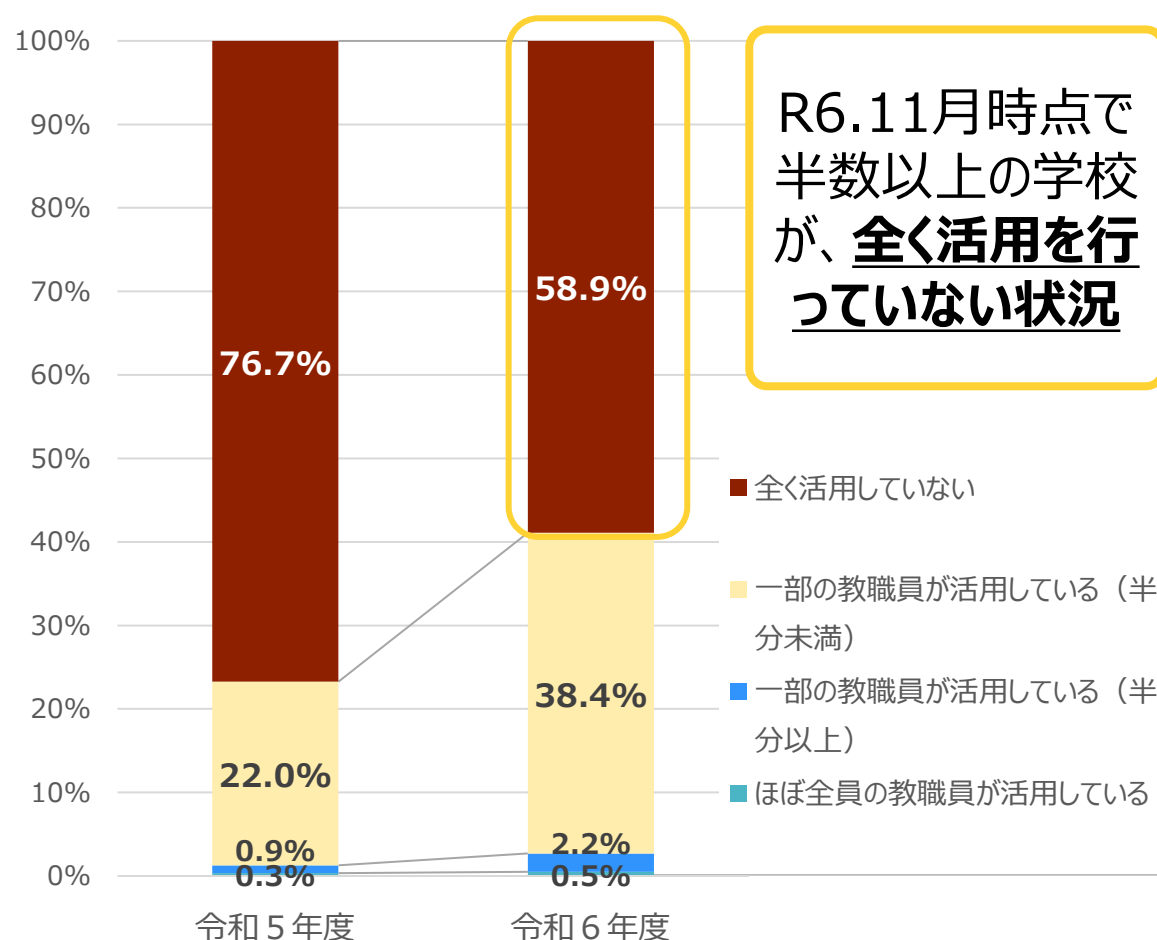
校務における生成AIの利活用の状況

- 教職員の校務における生成AIの利活用は広がりつつあるものの取組は道半ば。生成AIを活用した学校で、働き方の改善に効果があったと思う学校が 97% と非常に高い割合。

GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト～学校・学校設置者の自己点検結果～[確定値]（令和7年3月26日 文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム）

「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成AIを校務で活用していますか。（n=26014）

校務DXに取り組んだことで教職員の働き方の改善に効果があったと思うか（n=671）



3. 学校現場において押さえておくべきポイント

児童生徒の学習活動



- **発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意**しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき
- その際、**学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味**することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

具体的な活用場面

- 情報モラル教育の一環として、生成AIが生成する誤りを含む出力を教材に、その性質や限界に気付く
- グループの考えをまとめる、アイデアを出す活動の途中段階で、一定の議論やまとめをした上で、足りない視点を見つけ議論を深める目的で活用する
- 英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストの作成に活用したりする
- プログラミングの授業において、児童生徒のアイデアを実現するためのプログラムの制作に活用する 等

令和7年度生成AIパイロット校の取組について

令和7年度予算額 1.4億円



背景・課題

- 令和5年度よりリーディングDXスクール事業の一環として、**生成 AI を教職員が校務において活用する実践例**や**児童生徒が学習場面で利活用する実践例**が全国から生まれてきており、令和7年度も引き続きその取組を一層深めていく必要がある。
- そのため、「**初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン（令和6年12月26日）**」を遵守し、学校現場における生成 AI の適切な利活用を実現する学校を「生成AIパイロット校」として指定し、支援を行うことで、**成果・課題の検証、事例の創出・普及を行うこと**が必要である。

取組内容

A. 校務利用

- 生成 AI サービスの利活用を通じて、以下のような業務において事例の創出・普及を行い、働き方改革に繋げる。**

【校務での利活用例】

- 児童生徒の指導に関わる業務の支援（授業準備・部活動・生徒指導等）
 - 授業で取り扱う教材や確認テスト問題のたたき台を作成する、授業での発問に対するシミュレーション相手として活用する、校外学習の実施行程のたたき台を作成する 等
- 学校の運営に関わる業務の支援（教務管理・学校からの情報発信・校内研修等）
 - 時間割・授業時数案を作成する、各種お便り（学年・学級だより、給食だより、保健だより等）・通知文・案内文のたたき台を作成する 等
- 外部対応への支援
 - 保護者会・授業参観・保護者面談の日程調整に活用する、外部向け講演会のあいさつ文のたたき台を作成する 等

B. 教育利用

- 児童・生徒の学びの中での利活用を通じて、以下のような事例の創出・普及を行い、情報活用能力・資質能力の向上につなげる。**

【児童生徒の学習場面における利活用例】

- 「生成 AI 自体を学ぶ」
（生成 AI の仕組み、利便性・リスク、留意点）
- 使い方を学ぶ
（より良い回答を引き出すための生成 AI との対話スキル、ファクトチェックの方法等）
- 各教科の学びにおいて積極的に用いる
（問題を発見し、課題を設定する場面、自分の考えを形成する場面、異なる考えを整理したり、比較したり、深めたりする場面等での利活用）

3つの機会

①夏季学習会



生成AIの最新動向と
利活用実践を学習

○基調講演

○ワークショップ

アイデアソン等のイベント形式で実践・知見の共有を行う対面の場を開催

②オンライン座談会

○パイロット校の横のつながりをつくる座談会

生成AIの利活用について、教員同士の悩みや利活用の事例を**共有する場**を作ること、取組を進める教員・教育委員会をサポート

指定したパイロット校に対して1グループ5校程度の少人数グループをつくりオンラインで実施

③成果報告会

（※R7年度実施予定）

○基調講演

○パネルディスカッション

○ポスターセッション

各校での実践事例をポスター形式で成果発表



生成AIパイロット校における校務での利活用の事例（令和6年度）

ガイドラインで例示している、① 児童生徒の指導に関わる業務の支援（授業準備・部活動・生徒指導等）、② 学校の運営に関わる業務の支援（教務管理・学校からの情報発信・校内研修等）、③ 外部対応への支援 等への活用例が全国の生成AIパイロット校から生まれているところ。

全国の生成AIパイロット校における取組状況（校務利用）

新潟県立国際情報高等学校 ①

生徒向けにディベートの雰囲気伝えることを目的に、探究活動のためのディベートのシナリオを生成AIを活用して作成。

かすみがうら市霞ヶ浦南小学校 ③

生成AIを活用し、学校HPの記事作成の負担を軽減。生成AI活用以前より1か月あたりの記事数が2.3倍に増加し、学校の発信を強化。

奈良市つぎか鼓阪小学校 等 ①

外国にルーツを持った子供が多く在籍しているなか、生成AIとその他の翻訳ツールを使い分けながら、学級通信や学校だよりを翻訳。

八丈町立富士中学校 ②

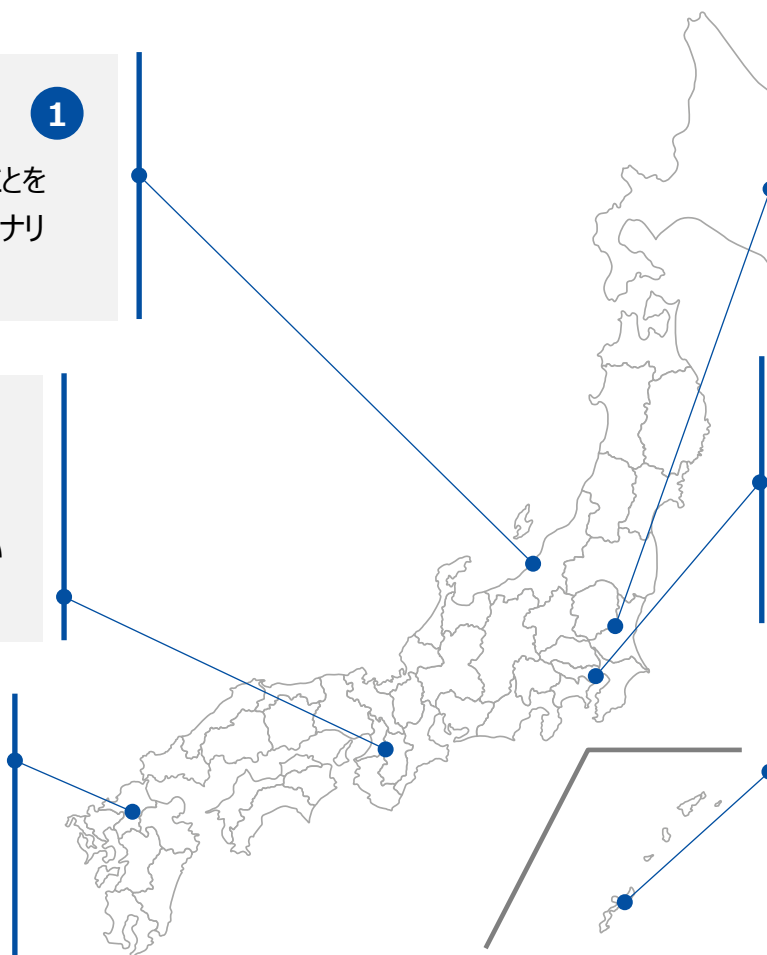
各学年の授業科目や教員の担当状況、教室の利用状況などの制約条件を考慮して、3学年2クラス分の週次時間割を生成AIを用いて作成。

苅田町立新津中学校 ①

学習指導要領・解説や指導と評価の一体化のための参考資料を参考にしたコメント生成を通じて授業指導案をブラッシュアップ。

沖縄市立諸見小学校 ①

毎時間のミニテスト作りを自動化し、日常業務に費やす時間を削減。生成AIの活用により、選択問題や記述問題などの多様な問題形式を出力。



生成AIパイロット校における学習場面での利活用の事例（令和5年度）

小学校

AIの正しい知識を身に付ける（情報モラル教育）



大阪市内高殿小学校

実施概要

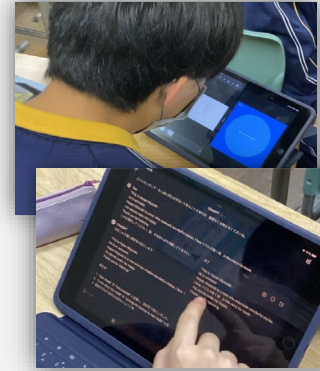
AIについての基本知識を確認。生成AIを利用して作成した記事と実際の記事を比較。今後どのようにAIを活用したいか、考えをまとめる。

児童の反応

「インターネット上の情報をすぐに信じるのではなく、様々な資料と照らし合わせたり自分の経験をもとに考えることが大切だと感じました。」

中学校

憧れの人物を英語で紹介（3年次・英語科）



宮城県岩沼市立
岩沼北中学校

実施概要

作成した英作文を生成AIに直接入力したり、音声入力したりして、訂正が必要な部分やより自然な英語表現を提案してもらう。

生徒の様子

生成AIとやり取りしたことで、より正確な英文を作り周囲に紹介できていた。音声入力をする事で、自分の発音の正しさも確認できていた。

中学校

話し合いで問題を検討する（2年次・国語科）



茨城県つくば市立
学園の森義務教育学校

実施概要

グループごとに設定した問題について話し合う活動。新たな視点や自分たちの意見に対するアドバイスを生成AIからもらい、検討を深める。

生徒の様子

生成AIからのアドバイスも、グループで話し合った内容に加えた上で再検討して、最終的な結論を出していた。

高等学校

デスクトップアプリの作成（1年次・情報科）



茨城県立
竜ヶ崎第一高等学校

実施概要

Pythonを用いたアプリの作成時にAIを活用してコードを作成。プロンプトを工夫しながら、目的に見合うコードを組み込みアプリを完成させる。

生徒の反応

「自分では書けないPythonのプログラムを書いてもらえ、それを見て勉強することもできてよかった。」
「例をすぐに出してくれて、理解しやすかった。」

生成AIパイロット校における学習場面での利活用の事例（令和6年度）

動画撮影等と組み合わせたマルチモーダルな取組や総合・高校情報等における生成AIの利活用方法が多様化。

中学校

動画から課題を把握しAIと対話（2年次・体育）



神奈川県相模原市立
中野中学校

実施概要

バスケットボールの練習風景の動画を見ながら、課題を見つけ議論を行うだけでなく、生成AIにアドバイスをもらいながら、理解を深めた。

生徒の様子

全体の動きを把握できるよう動画を撮る位置を工夫する姿が見られたとともに、AIとの対話も通じて、練習を行いながら試行錯誤する姿が見られた。

中学校

修学旅行の自主活動の行程を考える（2年次・総合）



熊本県熊本市立
桜山中学校

実施概要

修学旅行の活動内容を計画する課題解決学習において、各個人の興味関心を基に生成AIも活用しながら班での訪問場所やルートを決定。

生徒の様子

生徒が持っている旅行先の情報が少ない状況で、AIに繰り返し聞いたり、Webページの情報を収集したりしながら、時間の短縮にもつながった。

高等学校

データベースの構築（情報科）



大分県立
情報科学高等学校

実施概要

データベースのSQLを扱う実習において、作成する構文やエラーの解読に活用。40人一斉の実習で、生成AIが各生徒にアドバイスを提供。

生徒の様子

すぐに生成AIに聞くのではなく自分自身の回答を作成してから、自らの答えを検証する場面での活用が見られた。

高等学校

生成AIを活用したシステムの設計（情報Ⅱ）



山形県立
酒田光陵高等学校

実施概要

JavaScriptでゲームの開発を行う授業。実際のゲームの動作を考え、生成AIに繰り返し指示し、何が不足するのかを考えながら理想を目指す。

生徒の反応

生成AIに日本語で指示を行うことで要件定義の思考に集中することができた。微調整が生成AIではできず、コードを学ぶ意欲にもつながった。

生成AIパイロット校における学習場面での利活用の事例（令和6年度）

中学校

英語の発表原稿の評価・改善（苅田町立新津中学校・2年次・英語科）

実施概要

修学旅行の思い出について、ALTの先生に発表する授業。グループ内で、複数の方法で改善案を検討し、修正して発表することができることをめあてとし、スピーチ原稿案を生成AIからの評価・改善点を参考にしながら修正。

実践したプロンプト

あなたは中学2年生の英語教師です。下の評価規準を元に生徒が書いた英文「ALTに修学旅行の思い出を紹介しよう」を優しい口調で評価して下さい。評価の観点：

- 内容：旅行先で体験した具体的なエピソードや、印象に残った出来事が記述されているか。
- 構成：時系列やトピックに基づいた、分かりやすい構成になっているか。
- 語彙・文法：正しい語彙・文法が使われているか。多様な表現が使われているか。
- 感情表現：自分の感想や感情が表現されているか。
- 必須文法：現在完了形を用いた英文が1つ以上入っているかコメントの指示：
- 良い点：具体的な箇所を挙げて褒める。（例："〇〇という表現が良いですね！"）
- 改善点：具体的な箇所を挙げて、改善点を指摘する。（例："〇〇の部分は、〇〇とすると、より自然な英語になります。"）
- 質問：生徒がさらに考えを深められるような質問をする。（例："〇〇について、もう少し詳しく教えてください。"）

中学校

ふりかえりフィードバック「ふり返りくん」の作成（嘉手納町立嘉手納中学校・社会科の例）

実施概要

生徒は授業後に自分の記述を入力し、生成AIからフィードバックを受ける形式。各教科に特化した、見方・考え方を教科会で検討し、プロンプトに反映。生成AIが記述内容をほめたり、具体的なアドバイスを提供。

成果・課題

具体的なアドバイス等を受けることで学習意欲が向上した。国語の授業では学級単位で文字数が大幅に増加。1時間の授業のそう振り返り時数が18330文字を超える事例も。

実践したプロンプト

- [] 中学社会の「ふり返り」の記述を分析してフィードバックします
- [] 前段は、学習した事実（情報）が記述されているか
- [] 後段は、学習した事実（情報）に対しての自分の意見、考えが記述されているか
- [] 社会の見方は、「多面的」・どのような場所にあるのか ・どのように広がっているか
- [] 社会の見方は、「かかわり」・どのようなつながりがあるか ・どのような工夫があるか ・どのように協力しているのか
- [] 社会の見方は、「時間」・いつごろ始まったのか ・どのように変わってきたのか
- [] 社会の考え方は、「比べる」・ちがいがあるか比べている
- [] 社会の考え方は、「分類する」 ・いくつかの種類に分類している
- [] 社会の考え方は、「総合、関連付ける」 ・学習したことを総合する ・学習したことを関連付ける
- [] フィードバックについては、優しく具体例を挙げて解説して下さい。①学んだ内容について、②自分の考え、③改善点（よりよくするためのアドバイス）について伝えて下さい。見出しをつけて示してくれるとわかりやすいと思います。
- [] 中学校学習指導要領解説 社会編も加味してフィードバックして下さい。
- [] 学習者は14歳以上で、保護者の利用許可も取れています。

以下、対象記述データ

学びの充実など教育課題の解決に向けた教育分野特化の生成AIの実証研究事業

背景・課題

● 課題解決に向けた生成AIへの期待

- 生成AIは、多言語対応が必要な外国にルーツを持つ子供・保護者への対応や、一人一人に合った個別最適な学習コンテンツの生成・提供（リアルタイムでのフィードバック・個人に最適化された問題・導入の生成）などの可能性が指摘されている

● 教育×生成AIの取組はまだ黎明期

- リーディングDXスクール事業にて生成AIパイロット校等で、生成AIの利活用に関するユースケース自体は一定創出されてきたところ。
- 汎用的な生成AI活用は進んだが、教育分野特化な生成AIのモデルやサービスについては、技術や実装観点も含めた検討の余地が残る

事業内容

趣 旨

- 多様な子供たちの状況に対応し、個別最適・協働的な学びを実現することが求められている中、それに対する**生成AIの活用可能性を整理・検証し、教育分野に特化した生成 AI のモデル・サービスの開発等を通じて課題解決の可能性を検証**する
- 汎用基盤モデルを活用した約款型サービスではなく、**教育分野に特化させるための参照データの整備やモデルのチューニング、現場での実装の在り方等、様々な検討**を行い、**学校現場実装の知見を体系化**する

実証概要

- 期間：2025年8月～2026年2月末
- 件数：2,000～5,000万円×5件

実証論点

- 教育課題解決の実践創出のための論点
- モデル・サービスの開発やデータ整備に係る技術的な論点
- サービスの導入における論点

実証テーマ i 個別最適・協働的な学びの深化の実現

- 個別最適・協働的な学びの一体的な充実に資するもの
- 学習理解度や特性等に応じ、学習計画性や学び方を支援するもの
- 教育課程に基づき、組織的かつ計画的な教育活動の質を向上させることに資するもの 等



実証テーマ ii 誰一人取り残されない教育の実現

- いじめなどの生徒指導上の課題への対応支援や、不登校、病気療養、障害のある子供、外国人児童生徒への対応などきめ細かい支援・指導に資するもの
- 経済的状況、地理的条件によらない、質の高い学びに資するもの 等



実証テーマ iii データ利活用の促進

- 学校現場に蓄積された学習履歴、調査結果等のデータを踏まえた教育的示唆の導出に資するもの
- 教科書や問題集等の質の高いデータの利活用に関するもの 等



学びの充実など教育課題の解決に向けた教育分野特化の生成AIの実証研究事業

生成AIを活用し、個別最適・協働的な学びの実現に資する教職員への支援や、多言語対応・特別支援への業務等必要な児童生徒への支援向上等に資する取組の計5件を採択。（※7月29日時点）

テーマ	実証事業者	実証概要(*)	実証フィールド(予定)
テーマ i 個別最適・協働的な学びの深化の実現		実社会に紐づく学びによる学習意欲の向上や主体的・対話的で深い学びの実現 教科書データやニュースデータを活用した生成AIにより、教科学習・探究学習における多様な視点・観点等を提供	✓ 千葉県印西市、東京都渋谷区、鹿児島県肝付町、高知県須崎市、埼玉県行田市、兵庫県芦屋市
	 KONICA MINOLTA	教員の専門性を踏まえた授業計画力の向上による児童生徒の学びの深化の実現 学習指導要領や児童生徒の実態、教職員の経験等のデータを活用した生成AIとの対話により、授業のゴールや授業内容、評価等を生成	✓ 群馬県吉岡町、大阪府箕面市
テーマ ii 誰一人取り残されない教育の実現		特別支援における支援計画等の作成支援による教員の負担軽減・指導力向上や、自立活動の深化の実現 過去のエデュケーション支援計画や指導計画等のデータも活用し、生成AIが流れ図や個別のエデュケーション支援計画、年間指導計画等を生成	✓ 静岡県（県立特別支援学校）
		多文化多言語の児童生徒のことばの発達と習得状況の見取りによる個別最適な指導の実現 「ことばの力のものさし」や、個別の指導計画案等のデータを活用し、生成AIが教員向け「見取りと指導のアドバイスシート」の一部を生成	✓ 大阪府 等
テーマ iii データ利活用の促進	 東京書籍	教科書データの活用基盤の構築による学習サービスの品質向上の実現 中学校の数学、社会、理科、英語の教科書を意味単位で構造化し、メタ情報が付与されたデータベースによるRAGを基盤として提供	✓ 立命館大学附属守山中学校 ✓ エデュケーションサービス事業者